

# 令和6年度「長野県児童生徒体力・運動能力調査」実施要項

長野県教育委員会事務局保健厚生課

## 1 調査の目的

県内の児童生徒の体力・運動能力の実態を把握し、今後の体育指導の改善及び基礎体力養成の資料とする。

## 2 調査の対象

(1) 小学校	1～6学年の男女児童	60校
(2) 中学校	1～3学年の男女生徒	40校
(3) 高等学校	1～3学年の男女生徒	12校
総計		112校

## 3 調査協力校の抽出方法

- (1) 地域等を配慮して抽出する。
- (2) 小学校においては過去5年、中学校においては過去4年の協力実績を考慮して抽出する。
- (3) 高等学校においては、再編成以前の協力校を考慮して抽出する。

## 4 各校における提出人数

各学校における提出調査人数は、原則として各学年男女全員とする。  
ただし、事情により全員提出できない場合は、相談に応じる。

## 5 調査実施の期間 令和6年5月～7月

## 6 調査の内容と方法 新体力テスト及び生活実態調査

### (1) テスト項目

ア 小学校1年～6年（6歳～11歳対象）8項目

	項目		項目
1	握力	5	20mシャトルラン
2	上体起こし	6	50m走
3	長座体前屈	7	立ち幅とび
4	反復横とび	8	ソフトボール投げ

イ 中学校1年～高等学校3年（12歳～17歳対象）8項目

	項目		項目
1	握力	5	20mシャトルラン 又は持久走のどちらかを選択
2	上体起こし	6	50m走
3	長座体前屈	7	立ち幅とび
4	反復横とび	8	ハンドボール投げ

(2) 実施について

スポーツ庁から示されている「新体力テスト実施要項」により実施する。  
以下の留意事項を参考にし、正確な測定を行う。

<留意事項>

ア 事前に測定の意味や方法を十分理解させ、実力が十分発揮できるように指導をする。

イ 反復横とびのラインの間隔は小学生・中学生・高校生とも1mとする。

ウ ソフトボール投げのボールは1号、ハンドボール投げのボールは2号を使用する。

エ 測定器具については、握力計の精度について留意する。

オ 校舎改築等、調査協力校の状況により、一部のテスト項目の実施を見送るなどの判断をする場合には、調査標本数を確保する観点から、決定後速やかに県スポーツ課へ連絡をすること。

7 その他

(1) 実施した体力テストの記録等は、後日送付する「新体力テスト集計システムの活用」に添付された「新体力テスト記録表 (Excel)」に入力し、下記の日程にそって期日までに提出先に記録表を提出する。**※記録表が必ず本年度のものを使用すること**

<小中学校の提出>

該当部署	締切日
各学校 から 市町村（学校組合）教育委員会	<u>令和6年8月23日（金）</u>
市町村（学校組合）教育委員会 から 教育事務所	<u>令和6年8月28日（水）</u>
教育事務所 から 保健厚生課	<u>令和6年9月2日（月）</u>

※高等学校は、直接保健厚生課に令和6年9月2日（月）までに提出する。

(2) 本調査は、スポーツ庁健康スポーツ課が実施する「体力・運動能力調査」（6歳から79歳までの体力等の調査）の依頼を受け、小・中・高校の全学年を対象に行う。よって、調査協力校の中からさらに、小学校3校、中学校3校、高等学校全日制2校、高等学校定時制2校を選出し、その中から決められた報告者数の児童生徒を、名簿番号一番から順に抽出し、報告する。

※文部科学省が平成20年度より始めた「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（小学校5年生と中学校2年生対象）とは異なる調査である。

なお、本調査及び「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に提出する新体力テストのデータは同一のものとする。

## 8 参考資料

### **子どもたちの力が十分に発揮されるためにも（実技に向けて）**

☆ほかの子と比べて「できない」と不安や劣等感を持つことがないようにしましょう。

- ・みんなで声を掛け合い、励まし合う関係性の中で。
- ・子ども自身が納得できるチャレンジとして。

（練習時間、動きになじむための時間の確保など）

☆昨年の自分をふりかえり、今年度の目標をもって取り組みましょう。

☆けがをしないように、十分に体を温めてから行いましょう。

### **子どもたちの正確な実態を把握するためにも （児童・生徒質問紙に向けて）**

☆あわてず、ゆっくりと考えて答えられるよう、時間を確保して行いましょう。

☆運動時間とは、身体活動を伴うものの内、児童生徒自身が「運動」と感じている活動時間全てを含みます。

例)・登下校も送り迎えの車ではなく、ちゃんと歩いているよ。

- ・休日や放課後に「散歩」や「自然散策」に行くこともあるよ。
- ・一日の歩数、1万歩以上を心掛けているよ。
- ・エレベーターは使わず、階段を利用しているよ。
- ・心もスッキリするエクササイズやヨガ、柔軟運動をするよ。

**健康教育の中で、生活の中にある「活動時間」を探してみよう。**